

TOREK 自然農法 ホットニュース

第 255 号 2019. 7. 25

健康な地球に生きる健全な人間の姿を求める「岡田茂吉師」が提唱した「自然農法の原理」に基づき、「無施肥無農薬栽培」を通し、生産、流通、消費者がお互いの現場を理解し合える、安全で豊かな「食」の普及に取り組んでいます。

笑顔の TOREK 東中野頒布会♪

7月7日(日)に開催された東中野頒布会で、スタッフとしてお手伝いさせていただきました。

当日は雨が降る中でしたが、多くのお客様が足を運んでくださり、天候に負けない活気あふれる会となりました。スタッフとして参加するのは今回が2回目です。前回は、生産者や自然農法の作物を求める購入者の熱い想いに触れ、多くの刺激を受けました。今回も、「少しでも多くの学びを得られたら」と思い参加しました。

会場には、生産者の想いがたくさん詰まった作物や、自然農法のお茶、お菓子などが並び、また、食べ比べ、飲み比べのコーナー、市川生産グループの自然茶や食についてのセミナー、お食事の場所も準備されました。私は主にレジ係として出入口にほど近い場所で見渡すことができました。印象的だったのは、来場される方々の表情です。自然農法をご存知の方もいれば、初めて耳にする方、初めて作物を口にすることもいらっしゃいます。会場に入ってきたときには、「どんなことをしているのか?」と、怪訝(けげん)な表情を浮かべていらっしゃる方もいましたが、作物を召し上がったたり、購入されたりして、帰るころには皆さん笑顔で帰られていきました。堀さんのもち米を使った純米飴が新発売され、購入した方から間もなく、「食べ物を受け付けなかった母が食べられました!」と感謝の連絡があったとのことでした。

生産者と消費者が語り合い、お互いを理解し合う姿や、作物を口にすると満面の笑みを浮かべる姿、色々な表情に出会えた頒布会でした。安心安全でみんなが喜びを感じられる、そんな自然農法がもたらす多くの幸せを垣間見た瞬間でした。次は友達もお連れしたいです!(スタッフ:松本紗季)

自分は会場の外で、「ふかしイモ」販売の係をしています。通りすがりの年配の女性に声をかけてみたところ、興味がありそうだったので、試食をしていただいたら、「昔の味がする」と、おいしそうに食べてくださいました。昔は、家族の方が農家だったそうで、「これはおいしい!」と喜んでくださったのが印象的で、とてもうれしかったです。そのあと、その方が会場の中まで見にいかれて、自分は一緒に中には行けなかったのですが、「自然農法の作物です!」ということだけでも伝えられて良かったです。自分がさせていただいているスタッフとしての役割が重要なものだと思えました。

今回、雨で人通りが少なかったのですが、いつもより話に興味を持って聞いてくださる方が多かったように感じました。立ち止まって話を聞いてくださる方もいて、少しずつでも自然農法の理解が広がっているのだと思いました。(スタッフ:高3年 野中康信)



胃腸風邪でも胃におさまる作物!

愛知県 新堀真知子

5月下旬、小学3年の息子の同級生が熱で学校を早退しました。翌朝、お母さんとお会いし、様子を伺うと、「昨日病院に連れて行って、胃腸風邪と診断されて、薬を飲んだけど、食べても飲んで気持ち悪くなって吐いてしまって…」と心配していました。堀さんの自然米を購入していたものがあって持っていく約束をしました。

自然米と、市川生産グループの焙じ茶を持って家に届けた際に、我が家では、体調の悪いときでも、このお米とお茶で乗り越えられていることや、以前ホットニュースに掲載されていた、何を食べても吐いてしまうとき、自然米のおにぎりを食べたら、海苔や具は出てきてしまっても、お米は体におさまったという話をお伝えしたところ、「ちょうどお屋におにぎりが食べたいと言っていたから、早速炊いて食べさせてみる…」と、とても喜んで受け取られました。



そして午後、お母さんにお会いしたときには、「あのあと、お屋におにぎりをバクバク食べて、お茶もかなり飲んだよ…お陰でぐっすり眠れて、だいぶ元気になってきたみたい、食べやすかったのかな…あんなに食べられなかったのに、本当に不思議だった」とのこと。翌日には元気に学校に行くことができました。食べられて眠れる、これは本当に大切なことで、でも一般では、体調の悪いときにそれができず、大きな心配を抱えているんだと思いました。しかし、自然農法を教えていただいている私たちは、そんなときでも心配どころか、逆に食べられる喜びを感じられる、この差は大きいなと思いました。

無施肥無農薬の作物が必要なときにすぐに手渡せるよう、私も自然農法に携わっていきたくと思います。生産者のみなさん、いつも貴重な作物を生産していただき、ありがとうございます。

おかげさま!各地の田んぼ報告

TOREK 自然農法普及員 野中康次

今年も「おかげさま」で、TOREK 自然農法普及員として、圃場見学、体験学習、田植え、除草のお手伝いに行かせていただいています。主な稲作生産地は、宮城、長野、福井、石川、千葉、静岡、熊本等です。春から寒気、降水量の多い梅雨、日照不足で、スタートから難しい年になりそうです。7月20日現在、まだ田植えを頑張っている方がいます。今年も秋までハラハラが続きそうです。

石川の山下さんは、昨年自然農法の田を1枚増やして2枚です。昨年の反省から、水路の水をとることが難しく、人に任せず、自身で毎日足を運び、稲の生長や田んぼの状況を気にしているとのこと、昨年より稲にたくましさを感じました。同じく石川のよしたい農園では、すこぶる順調に田植えされていました。育苗で色々苦労があったようですが、良い感じでした。昨年は、販売できないお客様が出て、申し訳なく思い、気持ちの入った作業姿が印象的でした。

福井のコスモファームの黒田さんは、無施肥苗も作り、少しずつ販売できるようになりました。環境問題、温暖化を考えて、自然農法の大切さを広めていきたいと語ってくれました。

栃木の五十嵐さんは、育苗時に寒気で生長止まり、温める手段を考えて、何とか予定しているほどの苗に生長した様子を見学させていただきました。後日、無事田植えできたことご報告いただきました。稲への思いやりの強さを感じました。

7/11(木)、きじま平の堀さんの田に、草取り体験学習に行きました。8名で少時間でも受け入れていただき、ありがとうございました。参加者の一人が「喜びと感謝の生産実体験で、自然農法やお米の話を聞くと、田んぼ体験の感覚が浮かんでくる」と話してくれました。生産者の堀さんも「除草してくれた皆さんの気持ちから、こちらも力を頂ける、この後は、責任をもって収穫まで育てていきます」との言葉、もっとお手伝いしたい気持ちを収めて、帰路に着きました。

今年は、大自然、生産、流通、消費者の「おかげさま」の自然農法について、生産者と意見交換してきました。心ある生産者の皆さんに、ただただ感謝が湧いてきました。最近、「食べられないところを、〇〇さんのお米で生命力が復活した」という話がいくつもあり、やった甲斐あったと、目頭を熱くしながら生産者と話し合いました。今年は、より向上した自然農法の生産者や生産量が求められてきます。

来年は東京オリンピックです。世界に自然農法が伝わることでしょう。私たち消費者も、しっかり「自然農法」を実食し、機会あれば体験や見学等足を運び、無施肥無農薬のお知らせの努力をして、正しく自然農法を広め、生産、流通、消費の輪をさらに大きく作り出していきたいと思います!



お知らせ

- ★ 自然農法農産展 8月3日(土) 販売 / 8月18日(日) 展示
食のあふれている今、人を生かす生命力ある食べ物は一体どれほどあるのでしょうか? 「本物を食べる。作る。考える。未来につなげよう! TOREK 自然農法」をスローガンに取り組んでいます。目で見ただけでなく、舌や鼻で、本物の作物を感じてください。(販売予定はチラシをご覧ください)
- ★ 自然農法頒布会 8月10日(土) 三咲会場 10:00~14:00 (売切れ次第終了)
- ★ 自然農法頒布会 7月30日(火)、8月22日(木) 鎌ヶ谷会場 11:00~15:00 (売切れ次第終了)

お問い合わせ先: 編集部 針貝 FAX: 03-3369-3324 e-mail: naturefarming@torek.jp
TOREK活動のホームページもご覧ください。 <http://www.torek.jp>